

IPv6 普及・高度化推進協議会

IPv4/v6 共存WG

サービス移行s-WG 活動のご紹介

~普及より先の利用を目指して~

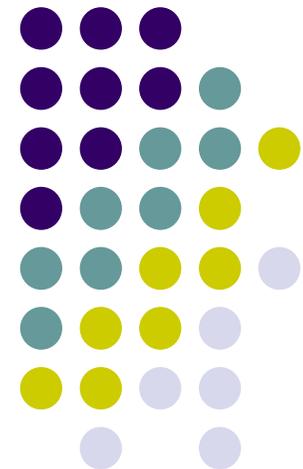
Sub-Working Group co-chairs

ソフトバンクテレコム

工藤 真吾

MKIネットワーク・ソリューションズ

仲西 亮子



IPv6 普及・高度化推進協議会とは



- 2001年10月設立
- IPv6の技術向上とその普及に努めている団体
- お金は会員の年会費で賄われています
- 会員会社数は110社 (理事社含む)
- 協議会内部に複数の WG が存在している
- 詳細は web を参照して下さい

<http://www.v6pc.jp/jp/council/index.phtml>

IPv4/IPv6 共存WGと サービス移行s-WGとは



- IPv4/v6 共存WGは2007年から活動開始
 - 名付け親は村井純御大 😊
 - IPv6 移行時の共存環境における技術や運用について検討する WG
- IPv4/v6 共存WGの中に『サービス移行s-WG』があります



サービス移行 s-WG のねらい

- 迫りくるIPv4 address 在庫枯渇期において IPv4 と IPv6 が共存する環境を想定し、その環境下で現状のサービス提供を安定/維持させる事が可能かを検討し問題点を整理する
- 共存環境実現するに辺り、現状困難な状況を整理する
- サービス提供の安定/維持と将来的なスケールアップの可能性について模索する
- 「IPv6」に移行しない！というリスクについても別途検討中

s-WG で現在の具体的な検討事項



- 対象
 - Webサービスを展開する顧客を抱えるホスティング事業者のIPv6対応と移行について検討する
- 問題点
 - IPv6が end-user 側に浸透し始めホスティング事業者のサーバに IPv6 packet が reach して来た場合をどうするか？
 - IPv6サービスの開始を始めるトリガー、または基準は何か？
 - 事業拡張の際に、追加割り当てのアドレスがIPv6アドレスしかもらえない場合どうするか？



検討の具体的事項

- 期間の定義
 - 第1期:IPv6 開始期:現在～約1年間(2008～2009/03)
 - 第2期:IPv6 黎明期:1年後～1年(2009/04～2010/03)
 - 第3期:IPv6 共存:2年後～数年 (2010/04～)
 - 第4期:IPv4終了:未来... 5年後? 10年後? 20年後?
- プレイヤーの定義

本 s-WG での呼称		総務省の報告書での呼称
ネットワーク事業者		ネットワーク
web サービス事業者	経営者	サービス
	サービス企画等	
	インフラ担当者	
	web 開発/技術者	
ユーザ		ユーザー



(おまけ) ちょっと脱線

- 今日、『IPv6 対応PLAN』のRFC が出ました
 - 「An Internet Transition Plan 」(RFC5211)
- ざーっと読んだ感じだと
 1. 2009年12月までに各事業者は準備せい
 2. まもなく事業者はすべてのサービス (DNS/web/mail)をIPv6に対応しないといけないって、書いてある。あながち予測と間違っとなさそう...ε-(´▽`*)ホッ
- Transition Phaseが2年ってのが気になるけど...



s-WG の目指すもの

- IPv4アドレス枯渇期の混乱が少しでも軽減できるように。
 - Web サービス事業者のサービスが移行期に継続できるか？ IPv4/v6 によるwebサービスの相違がないように。
 - テスト環境の準備のメジャーケース検証
 - 断絶したレイヤへの状況/情報の共有
- 活動の目的は「普及」ではなく「利用」
 - 利用されてこそ発展があるという信念



興味のある方は連絡ください

- 参加するには...
 - 協議会そのものの会員になる
 - 年会費が必要になります
 - 協議会の個人会員になる
 - 年会費は不要です
 - 会員については web を参照して下さい
<http://www.v6pc.jp/jp/council/apply.phtml>

多くの方々のいろいろな視点からの意見を求め、対策案について検討 (健闘) しています!

ということで...

IPv6 移行

とうぎやざーしようぜっつ！

